

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

2021年度-年次総会 -書面審議にて行われる-

2021年度千葉県日独協会年次総会は、新型コロナウイルス感染拡大の収束の目途が立たない状況のため、従来の一室に会する総会は今年度も不可能となり、昨年同様に郵送による書面方式により審議が行われました。

前段階として、理事会についても書面方式にて開催し、年度総会提案議題の審議を行い、総会に諮る議案を決定しました。

理事会の決定に基づき、書面形式の年次総会の開催は4月17日付にて全会員に総会資料を郵送し、審議結果を返送していただく方法にて行われました。

書面による審議の結果、締切り時点で会員数121名の内、議案に対する賛成73名、反対0名、未回答48名となり、賛成会員は過半数の61名を超えており、第25回年次総会議案は規約第10条の3項に基づき、多数決にて原案通り全て承認されました。

千葉県日独協会総会議案書

■2020年度(令和2年度)事業報告(案) (新型コロナの為、下線のみ実施)

(1)主な会議：・運営委員会(対面、メール、オンラインで開催)・理事会(書面会議で開催)・年次総会(書面方式で開催)
(2)期初に計画した主要行事：* 定例行事：・総会記念講演会・ビール祭り・ドイツ軍人慰霊祭・クリスマス忘年会・新春講演会) * 文化教養行事：・ポトルシップ研究会・ドイツ語講習会(青壮年部関連)・ドイツパンと料理を楽しむ会、・トールペインティング教室・ドイツワイン試飲会・食バ歩き会(タンネ)・記念菩提樹応援隊(日独交流150周年植樹のその後)・(新規) Stammtisch(Zoomドイツ語を交えての交流会) * 特別行事：・会員親睦旅行・国際フェスタ千葉・市川ドイツデー・習志野ドイツフェア・千葉大のドイツ人留学生との交流・25周年記念事業検討委員会開催(3)協会通信「Die Eiche」：編集委員会を開催し、偶数月年6回(No124~129)発行(4)協会ホームページ運営、管理等の事業が報告され承認されました。



ZOOMでのシタムティッシュの様子

■2020年度(令和2年度)決算報告(案)及び監査報告

一般会計実績：収入の部合計1,260,836円、支出の部合計466,323円、次期繰越金794,513円、・特別会計実績(日独友好及び記念行事)：収入の部合計1,137,960円、支出の部合計72,390円、次期繰越金1,065,570円の決算となり、監事の適正を認める監査報告

書も添付され承認されました。

■2021年度(令和3年度)事業計画(案)

新型コロナのため不透明であるが、従来実施してきた各種行事項目及び新たな試みを一応計画し、実現できる環境になった時点で具体的案を作成し実施する。ウェブ、オンライン催しの企画も検討します。

(1)主な会議：運営委員会(毎月)・理事会(書面)・年次総会(書面)(記念講演会・懇親会は中止)、(2)主要行事* 定例* 文化教養* 特別(各行事とも従来実施してきた行事及び新企画を計画するが実施は未定、詳細は総会資料)、(3)協会通信「Die Eiche」は編集委員会を開催し原則偶数月年6回発行する。その他、今年度は特別号「創立25周年記念号」を発行する(4)協会の情報発信の在り方の検討(EicheとHPの棲み分け、費用軽減等)(5)全国日独協会連合会総会(4月から秋に延期)(6)日独協会アムニダールラインとの交流(千葉県国際課との連携)、等の計画が報告され承認されました。

■2021年度(令和3年度)収支予算(案)

一般会計予算：収入の部合計1,294,016円、支出の部合計615,000円、次期繰越金合計679,016円・特別会計予算(日独友好及び記念行事)：収入の部合計1,217,575円、支出の部合計568,200円、次期繰越金649,375円合計にて予算が承認されました。

■2021年度役員(案)、

下表の役員が承認されました。その他、報告事項として運営委員会は青字で示した以下12人のメンバーで開催することが報告されました。(常任理事：志賀 久徳)

役員 (任期 2020年4月-2022年3月)

名誉会長	平尾 浩三	宗宮 好和		
会長	金谷 誠一郎			
副会長	木戸 裕	杉田 房之 (事務局長)		
常任理事	安藤 永一	勝見 浩明	志賀 久徳	土屋 有里
	本間 実里	本橋 緑 (兼会計)		
	吉川 三朗			
理事	石元 成子	植松 健	大野 亘児	岡村 三郎
	尾崎 裕一	北村 侑三郎	木戸 芳子	草本 晶
	近藤 弘	坂本 宗秋	須古 正恒	竹内 優
	田中 瑛	田中 正延	友野 信善	内藤 敏子
	中村 孝子	永池 克明	西阪 知晃	堀江 弘隆
	松江 美代子	宮藤 宏	室田 真由見	綿貫 尚
会計	本橋 緑 (兼常任理事)			
監事	中野 泰行	湯浅 正人		
事務局	山本 博秋			
顧問	林 静誠			
	カルステン キーゼヴェッター-武官 (ドイツ連邦共和国大使館 ドイツ陸軍大佐)			
	堺 一夫 (陸上自衛隊第一空挺団長兼習志野駐屯地司令 陸将補)			

会員 伊藤 良昌氏 ドイツ連邦共和国より功労賞受賞

3月12日（金）11:45より、大使公邸の庭園において、イナ・レー

ベル大使から、伊藤良昌氏に功
労勲章 功労十字小綬章の授
与式が開催されました。当日
は、曇天ながらも気温は15度
近くとまずまずで、東京の桜開
花宣言の2日前。授与式にはご
親族の皆様、御宿町の方々、
大使館武官室のキーズベッター
武官、アンネ カトリン クルザフス
キ海曹長など30名近くの関係
者が参列して式を見守りまし



た。大使は、①嘗てドレスデン工
科大学のハインリッヒ バルクハウ
ゼン教授の下で学ばれた父君
庸二氏が帰国時に同教授から
いただいたバルクハウゼン クルツ
振動管（通称BK管）がドイツ
本国では、大戦中に消失してし



まったことが最近判明したことから、伊藤家保管のBK管をミュンヘンの
ドイチェス ムゼウムに返還された事、②伊藤良昌氏が代表者となって
いる御宿の五倫文庫には、庸二氏が1936年にドイツから持ち帰り
翻訳された「ポーポー頭のペーター」があり、同書はフランクフルトのハ
インリッヒ ホフマン博物館に世界各国の翻訳本と共に陳列されてい
る。③1980年代前半には、ドイツ人学生の東北大学留学を援助さ
れた。など日独交流に努められたことを紹介して勲章を授与されまし
た。尚、弟の光昌氏も2008年に同章を受賞しておられます。伊藤
家は代々「名主」であったとの事です。

（会長：金谷 誠一郎）

新理事の抱負-理事着任に当たって

2017年9月に千葉県日独協会に入会し、
早いもので3年以上経過しました。大学院1年
目の夏に日独スポーツ少年団同時交流の帯
同通訳で習志野市を訪れていたとき、ドイツ柔
道ユージュントと市立習志野高校柔道部の合同
稽古の際に田中前編集委員長がDie Eiche
の取材にいらして、そのときに偶然声をかけ
ていただいたのがきっかけで入会しました。（公
財）日独協会の存在はドイツ語を始めた当時
から知っていましたが、県内に協会があることは
恥ずかしながら存じ上げていなかったため、声を
かけていただいた嬉しさと同時に、千葉県にも
日独協会があるのか！と驚いたのを今でも覚
えています。



県内にはドイツ語を学べる大学・高校が複数存在することからも、ドイツや
ドイツ語に興味のある若者は実際少なくないのではないかと感じています。
上記のエピソードもふまえて、ドイツやドイツ語に関心のある県内在住の
方々、特に若い世代をターゲットにどうリーチしていけるか、協会のことを知っ
てもらえるかを念頭に、微力ながらも協会の活動に未長く携わっていきたく
と考えております。今後SNS等も積極的に活用し、千葉県日独協会の存
在とその活動をより多くの人にアピールしていきたいです。

（理事：竹内 優）

青壮年部活動について -これまでの活動と今後に向けて-

会員の皆様 こんにちは。

私は、2019年より青壮年部の活動を担
当しております。この青壮年部については、
3年前の総会で承認され現在に至っており
ます。Die Eiche No.118で青壮年部活
動についてご紹介しておりますが、この間の
状況、今後の方向性をあらためてご紹介さ
せていただければと思います。



青壮年部部长 勝見 浩明

まず、青壮年部の設立の目的は、現時点
においても変わりません。即ち、活動内容の
多様性、活性化、そしてこの協会を存続さ
せる意味で新規会員の増員となります。新規会員の増員に対してこ
の間、青壮年部が大きく貢献してきたかと申し上げますと、残念ながら、
その活動成果としては、顕著な結果は見いだせてはいないと
言わざるを得ません。

一方、数では、劇的な増員の結果には至っておりませんが、この
間、新規に入られた会員による新風は、確実に吹き、千葉県日
独協会における各活動テーマ（ドイツ軍人慰霊祭、講演会、ドイツ文
化研究会、学生交流支援、ボトルシップ研究会、協会通信発行、
会員懇親会）を俯瞰して各テーマのここ数年の活動を捉えてみま
すと、コロナの影響に伴う実企画での実施活動はありませんが、青壮
年部メンバーの自由な発想に基づく、トルペインティング教室、日
独協会主催の「ドイツ語圏文化セミナー」の出席報告によるドイツ文
化の紹介、ドイツ料理、オーストリア料理の紹介、『エーリッヒ・カ
ウルの日記』翻訳活動への多くの青壮年部員の翻訳活動の参加、
ドイツ人を交えたシュタムティッシュの実施、ネット環境下での
ドイツ語講習会の開催運営など、活動の多様化と活性化が着実に
図られていると捉えています。6月19日には、ドイツ大使館後援
による日独メンバー参加による青壮年部懇談会を開催予定して
います。ここ数年の間に着実に活動の範囲を広げる動きが顕著
になってきていると捉えています。

さらに上記に記した活動の活性化について継続的に実効性を高める
為、対外的には、HomePageの刷新、SNSを通じた対外発信の
強化を含む広報活動戦略の企画推進、ドイツ人との接点構築を
継続的に行うための座談会等の実績、ドイツ文化、あるいは、
ドイツ人にニーズがあると思われる日本文化についての提供、
一方、対外活動のみならず、協会内部の活動としては、Die Eiche
千葉県日独協会25周年特別号の発行での会員全員に向けた施策
など、現時点で可能な活動は、今後も势力的に展開したいと思
っています。

青壮年活動について引き続き、ご理解、ご支援を賜ることが
できますよう、よろしくお願ひいたします。

（常任理事：勝見 浩明）

ドイツの街紹介

-Dresden und Meißen-

当協会のドイツ研修旅行の訪問先にもなった人口約54万人、ザクセン州の州都のドレスデンに関しては詳しい方も多いかと思えます。

かつて「百塔の都」とも呼ばれたこの地は、東西分裂から1989年までは、旧西ドイツの日本人駐在員も自由に訪問できない秘密の町となっていました。統一後に訪れてみると、「エルベ川の華麗なるバロックの都」とも言われるほど、重厚な歴史的建物の並ぶ美しい町になっていました。16世紀以降、ザクセン王国の首都として栄華を極めた古都には、エルベ川沿いの旧市街地区内にザクセン王家の財宝があるレジデンス宮殿、再建が完了したフauen教会(聖母教会)、アウグスト強王の陶磁器コレクションのあるツヴィンガー宮殿、州立歌劇場のセンパーオペラ、そして、約25000枚のマイセン磁器タイルにより壮大に描かれた君主の行列の壁等があり、歴史ある芸術と文化の都が蘇っています。また、川の対岸にはノイシュタト地区があり、橋を渡るとその先のジメルセンターにはDDR博物館があり、旧東ドイツ時代にタイムスリップします。

ベルリンから南へ約170キロのこの町は、チェコとポーランドとの国境にも近く、木製のおもちゃの町のザイフェンや、断崖絶壁の岩山のあるザクセンスイス地方、ケーニヒシュタイン城塞にも足を延ばせます。また、北西約14キロにあるモーリッツブルク城には古伊万里などのコレクションが展示されており、日本との関係を深く感じます。

憧れのマイセン磁器の故郷へは、ドレスデン中央駅からSバーンで約40分のところにあるエルベ川沿いの小さなマイセン駅で降りて少し歩けば旧市街です。対岸から高台のアルブレヒト城と大聖堂を眺めると、今も中世の面影が感じられます。5年前に城の敷地内のホテルに宿泊の際、そこには18世紀初頭に白磁器作りにヨーロッパで初めて成功した宮廷錬金術師のベトガーと、磁器製造の秘密を守らせたザクセンのアウグスト強王との物語の形跡が残っていました。磁器工場が置かれていた建物内にはベトガーの部屋が残され、ヤケ酒と成功時の場面が描かれています。

また、町の外れのマイセン磁器工場を訪れると、見学用工房と磁器博物館とに分かれており、高級陶磁器の作業実演見学が可能です。博物館には18世紀から現代までの磁器が並んでおり、マイセン磁器の歴史と有田(伊万里)との関係も知ることができます。

コロナが終息し、これらの町を再び訪れることが可能になり、また、歴史を感じ深く心に残るドイツの旅をしたいものです。

(常任理事: 志賀久徳)



フauen (聖母) 教会



ツヴィンガー宮殿の中庭



君主の行列の壁画



エルベ川からの城と大聖堂



アルブレヒト城と大聖堂



マイセン陶器の作業実演

素晴らしい音楽文化



ドイツと私 - 小林 杉男

ドイツ滞在は、私の場合駐在ではなく、長くて一ヶ月程、普通は10日位の出張でしたが、期間は10年以上に渡りましたので、東西統一前後の変わりゆく有様も実見でき、忘れられない体験や思い出があります。とりわけ音楽文化に接したときの印象が強く、そのいくつかを紹介させていただきます。

初めてのドイツ訪問は、東西統一間近の、ハンブルグでした。その頃は、まだ国境や検問所は残っていましたが、東西間の移動が自由化された時期にあたり、東側では入手困難な物資を求めてやってきた人々が小さな白い車(トラバント)に荷物を満載にして市中を帰り行く光景をよく目にしました。

土日はフリーでしたのでキールやリューベックなどへの日帰り旅行や市中散策を楽しみました。キールへの日帰り旅行の際、たまたま少女のワンダーフォーゲル・グループと同じ列車に乗り合わせたことがあります。車中でも歌っていましたが、発車前に中央駅前に集合した彼等はギターとアコーディオンの伴奏でフォルクスリートを何曲か歌って、集まった観衆を楽しませていました。日常の活動の中で音楽を楽しむドイツの若者達の姿が強く印象に残りました。

ある日曜日の午前中、ハンブルグ市内に多くある教会の様子を知りたくて、エルベ河口の畔にあるセントカトリナ教会を訪ねた時のことです。参加者は僅かでしたが、礼拝が終わると一人の青年が壇上に上がりリコーダーの演奏を始めました。その演奏と建物内の響き音の美しさに感銘。これも現地でドイツの音楽文化に偶々身をもって接した、忘れられない体験です。

音楽の楽しみ方のひとつホームミュージックは、ドイツでも盛んで、使用する楽器もギター、アコーディオン、ハーモニカ、アップライトピアノなど多岐にわたります。或る日招かれて古楽器の収集家ブッフリンガー氏のお宅を訪問した時のこと。音楽図鑑でしか見たことがない珍しい形の管楽器が並べられていて、ひとつひとつに手を触れて試奏させていただいたのですが、おもてなしの最後に娘さんがアルトリコーダーのソロ演奏を披露してくれました。バッハの無伴奏パルティータ、プロをも凌ぐ圧巻の演奏です。家庭内でもこのようなレベルで演奏を楽しんでいるところが素晴らしく、まさに音楽の国ドイツを其の場で感じたものです。

あの頃ハンブルグにいらした方は目にしたことがあるかもしれません。市庁舎前で偶然出会ったアルトサクソフン演奏で演じるガブリエル・リーデルさんの路上パントマイムも忘れ難い思い出です。街中で催される多くのパフォーマンスの中でも特に優れたものの一つと思われ、特記しました。終演後、彼女とは日本の「Butoh」や「アンクラ」芸術についての話ができ、こうした芸術分野での造詣の深さを感じました。

ドイツの芸能や芸術分野は広汎で、短い文章では語りつくせません。今回は、主に私の音楽上の細やかな体験、数編の報告に絞りました。音楽と芸術の国ドイツのイメージが少しでも伝われば幸いです。



古楽器試奏 (バスリコーダー)



おもてなしの アコーディオン演奏



庁舎前の パントマイム



ハンブルグ港の タグボートに同乗 (筆者)

青壮年部座談会

-協会の将来、日独若者交流を予定-

千葉県日独協会が今年で設立25周年を迎えることを記念して、6月19日（土）に青壮年部懇談会を開催することになりました。本懇談会は第一部「千葉県日独協会の未来」、第二部「日独若者シンポジウム」の二部構成となっており、ドイツ連邦共和国大使館後援の下で行われます。

第一部には青壮年部と運営委員が参加し、「千葉県日独協会の活動においてドイツ人との交流を活性化するには?」、「若手会員を増やすには?」、「今後企画したいイベントやDie Eicheのコーナー、協会の新たな取り組みは?」という千葉県日独協会の今後の方針に関する3つの議題について話し合う予定です。

第二部には青壮年部のメンバーに加え、元千葉大学留学生や千葉県の姉妹都市であるデュッセルドルフで学生をしているドイツ人もゲストとして参加します。「日独の若者交流をより活発にするには?」、「コロナ禍の日独交流-コロナ禍で日独のつながりを感じるには? コロナ終息後ドイツ・日本でやってみたいこと、訪れたい場所」という議題を、日独混合の小グループに分かれてアットホームな雰囲気です話し合う予定です。今回は言語の上達ではなく、あくまでも参加者の交流に重きを置いているため、使用言語は限定せず、お互いがコミュニケーションを取りやすい言語で話します。また事前に顔写真入りの参加者一覧を送付することで、顔も名前も初めてで緊張して話が弾まない...という状況を回避しようと考えております。

本イベントを無事終了させ、今後さらなる日独交流イベントに発展させていけるよう、現在は準備を進めている段階です。イベントの様子は後日Die Eicheにて詳しくご報告させていただきます。

(理事: 竹内 優)



ドイツ大使館より受領した
後援名義使用許諾書



座談会で使用するパネル背景も企画検討

日独交流150周年記念菩提樹

その後の成長 No.5

-Die Linden in Onjuku u. Chiba-

今月はまず御宿町にある記念菩提樹を紹介いたします。当協会会員伊藤良昌様、光昌様ご兄弟、ご一族と御宿町との関係については金谷会長が2ページでお伝えした通りです。そのようなご縁で御宿町には御宿小学校と布施小学校、そして歴史民俗資料館（五倫文庫）に1本ずつ菩提樹があり、10年前の2011年11月に御宿小学校で盛大に植樹式が行われました（Die Eiche No.75を参照下さい）。



歴史民俗資料館の菩提樹は、資料館と公民館の間の芝生ですくすくと育っています。立派な石碑が目印です。

次にご紹介するのは千葉市の昭和の森、なんと東京ドーム23個分の広さを誇る総合公園です！公園の案内図では、「第1駐車場」から「太陽の広場」へ進んですぐの時計台の近くに菩提樹があります。囲いと樹名板があり、そばに他の樹木がないので見つけやすいと思

ますが、事務所で場所の確認をしてから行くと良いでしょう。変化に富んだ公園で四季折々の景色を楽しみながら探してみてくださいね。

・御宿町歴史民俗資料館：

http://www.town.onjuku.chiba.jp/sub6/7/minzoku_shiryokan_01/

・千葉市昭和の森：<https://www.showanomori.jp/>

(常任理事: 本橋 緑)

書籍/Buch

「オーストリア滞在記」

今回ご紹介する本は、2018年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団所属ヴァイオリン奏者であるドイツ人男性と結婚した女優の中谷美紀さんが、去年、新型コロナウイルス拡大によりロックダウンされたオーストリアで、ザルツブルクの山中にある自宅で過ごした約3ヶ月間の日々を綴った日記エッセイです。



朝は掃除と洗濯に始まり、午後は買い物、食事作り、また、晴れた日には自宅の庭造りや草むしり、義理の娘とのコミュニケーションの為に始めたオンラインドイツ語学習に四苦八苦する毎日の生活の様子が丁寧に語られています。

Das Leben ist kurz (人生は短い) - ザルツブルクでの田舎暮らしの中、新しいパートナーとの暮らしを尊重しつつ子育てを協力して行う、ヨーロッパでは特別なことではない「パッチワークファミリー」というライフスタイルに出会ったことで、仕事に集中、休むべきときは休み、家族との時間も大切に、プライベートを存分に楽しむようになった著者の変化の様子が描かれています。コロナ禍で充実した日々を過ごす為にはお勧めの一冊です。

中谷美紀著 幻冬舎文庫 ¥825 (税込)

(常任理事: 本間 美里)

今後の予定

【イベント】

第2回 オンライン シュタムティッシュ / 青壮年部主催

「教えてアネッテさん、こんな時なんて言えはいいの?」

今回は、様々な場面における初級ドイツ語日常会話を重点的に行います。

日時: 7月18日(日)、8月22日(日) (全2回) 10:00 - 11:30

ホスト: フラウ アネッテ植松 (第1回シュタムティッシュ担当)

参加費: 会員 ¥1,000、一般 ¥1,200

詳細は、協会HP、メールにて別途ご案内いたします。

会員情報

法人会員

医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人

清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

前号の編集後記でも紹介しましたが、今月号のDie Eicheの発行と並行して、Die Eiche 千葉県日独協会設立25周年特別号の発行の準備を始動しました。現在、記載構成案を編集委員の皆さんと議論、6月中旬から7月にかけて制作会社と実際の制作工程を進める段取りを予定しています。この25年の協会活動を振り返り、今後の協会の将来の方向性も示すことができるような特別号を目指したいと思っています。同時に、従来と同じように活動するには、困難なコロナ環境下ですが、各種ドイツ文化紹介や、ドイツ人を交えた青壮年部座談会など困難な状況下でも活発に活動する機運を感じることができそうです。今後の活動をご注目ください (勝見 浩明)